

第 1 回「乳幼児栄養調査企画・評価研究会」における構成員の主なご意見

【全体的なご意見】

	主なご意見
対象年齢の拡大について	・国際的には「アンダー5」として年齢が区分されている。 ・母子保健上では、就学前の子どもにつながる結果となるため、拡大することに賛成。
調査の間隔について	短期間の変化も追えるよう、これまでより少し短い間隔で調査を実施した方がいい。
質問紙の構成の工夫について	回答者の負担を考え、妊娠期・授乳期・離乳期にフォーカスを置く比較的低い年齢集団と、幼児期以上の高い年齢集団とで、質問項目（紙面）を切りかえることはできないか。
国民生活基礎調査とのデータリンケージについて	特に本調査のベースとなる国民生活基礎調査の情報も活かしていくこととし、結果公表の内容や公表のタイミングを検討すべき。

【調査項目に関する具体的ご意見】

問番号	質問項目	主なご意見
属性	回答者の属性	回答者の属性欄がない。
	現在の身長・体重	「現在の身長・体重」は、いつの身長・体重かがわかるように聞いた方がいい。
	保育園等の就園状況	年齢が高い幼児では、昼食（給食）をどこで食べているかも関わってくる。
問 5	出産後の就労状況	年齢が高い幼児では、現在の母親の就労状況の方が関連してくる。
問 6	母乳栄養の割合	母乳栄養の定義が非常に曖昧。母乳を主とした母乳栄養の割合がわかるといい。
問 7	授乳や子どもの食事で不安だった時期	どの時期にどのような問題について養育者が不安だったかを他項目との関係で見えていく必要があるのではないか。
問 8	授乳での困りごと	・把握した方がいいが、整理する必要がある。 ・「9 作るのが苦痛、面倒」の表現は、否定的な印象を回答者に抱かせないような表現に変更した方がいい。
問 9	授乳中の子どもとの接し方	質問項目としての優先度は下がるのではないか。

問番号	質問項目	主なご意見
問10	母乳や人工乳に関する認識	聞く必要はないのではないかと。
問12	離乳食での困りごと	把握した方がいいが、整理する必要がある。
問13	離乳食に関する支援	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養指導については、保健センターと保育所が協働で進めている場合があったため、今回の調査項目には、保育所を選択肢に含めた方がいい。 ・学ぶ機会があったかどうかを聞くことも大事だが、支援内容の満足度についても聞いた方がいい。
問14	ベビーフードの使用状況	削除でいいのではないかと。
問15	ベビーフード等に関する認識	聞く必要はないのではないかと。
問16	食物摂取頻度	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児がどんなものを食べているかを把握することは重要。ただし、調査方法は検討していく必要がある。 ・食事の量と質、その両方がわかる設問が必要ではないかと。 ・EUで作成されている子どもの貧困に関する指標について、魚、肉、卵、大豆、果物など、必要ないいくつかの指標は残した方がいい。 ・対象者の多くが毎日食べている食品は積極的に聞かなくてもよいかもしれないし、野菜や果物については、積極的に把握した方がいいかもしれない。 ・歯の健康という関係から、甘味料等を把握する必要があるのではないかと。
問17	子どもの食事で気をつけていること	母親（回答者）の意識については、本当に気をつけているかどうかはわからないが、それでいいのか。
問18	現在の子どもの健康状態について	<ul style="list-style-type: none"> ・むし歯も含めて大切な項目であるが、前回の聞き方だと全体を網羅できていないため、整理する必要がある。 ・実態のほうが意識よりも重要な指標なのではないかと。 ・食物アレルギーについては積極的にデータを収集していく必要があるのではないかと。
問19	子どもの排便頻度	重要項目だが、もう少し聞き方を変えてはどうか。
問23	子どもの食事での困りごと	把握した方がいいが、整理する必要がある。
問24	子どもの外食頻度	大人の場合、貧困指標として国際的にも認められているが、子どもについては疑問を示す人もいます。